

令和7年度学校評価中間報告書

学校名（廿日市市立四季が丘中学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒 像)	短期経営目標 (めざす児童生徒 像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標 (前年度)	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
生徒が主体的 に学ぶ教育を 推進し、自分 の考えを表現 できる力を育 成する。 (主体性と表 現力の育成)	◎「子どもが主 役」の授業 の推進  ○表現力の向 上を目指し た授業づく りの推進	・生徒の思考に沿った「生徒が主役」の学習展開 ・生徒が「まなびたい」「考えたい」と思えるような問いや学習課題の設定 ・ICTの効果的な活用 ・「本時の目標に沿った振り返り」による学びの充実 ・教科の特性を生かした表現の場の設定 ・生徒の質問力の向上に関わる教師からの働き掛け	・「話し合い活動に進んで参加し、自分の考えを伝えている」と肯定的に回答する生徒の割合【校区共通】	90% (87%)	90%		100%	A	○タブレットを自分の考えを表現するために活用することができるようになり、主体的に学習する生徒が増えた。	・生徒は、先生が思っている以上によく教員の様子を見ている。その意識をもって授業に臨んで欲しい。 ・生徒の ICT 活用を促すには、先生自身が積極的に使うことが重要である。	・教職員間で ICT の効果的な活用方法を共有し、個々の教職員が実践の幅を広げていく。具体的には、研究会で実施した授業の動画を各自が視聴したり、相互授業参観をしたりすることで、他の教員の優れた実践を自らの授業に取り入れていき「子どもが主役」の授業をさらに推進していく。
			・「生徒が主役」の授業実践提案回数	各教員 2回以上 (-)	1学期 に一回以上 実施				○各教員が指導案の作成と授業の実践を1回～2回行った。夏休みには研修を実施し、2学期も1回以上行う予定である。		
			・『「本時の目標に沿った振り返り」をいつも書かせている」と肯定的に回答する教職員の割合	90% (-)	86.7%		96.3%	B	●ふり返りをすることは定着しているが、視点を与えたり、次時へのつながりを意識させたりすることが必要である。		
			・「話し合い活動で、生徒の質問力の向上に関わる働き掛けをいつも行っている」と肯定的に回答する教職員の割合	90% (-)	80%		88.8%	B	●話し合い活動は積極的に行っているが、質問力という点まで働きかけられていない。		
			・学力調査（1月実施）の通過率	通過率 全国平均 以上	—				・1月に学力調査を実施予定。		
生徒が自分の 良さや可能性 を認識し、互 いに認め合 い、協働しな がら課題を解 決できる力を 育成する。 (協働性と自 己有用感の育 成)	○自他を認め 合い、ともに 尊重し合う風 土づくり  ○集団の中での 役割の意識の 向上、自己有 用感の育成	・学校生活すべてを自分たちで動かす意識の醸成 ・リーダーを中心とした主体的な活動の実施 ・生徒同士による相互評価活動の推進	・「自分はクラスの人や友達の役に立っている」と肯定的に回答する生徒の割合【校区共通】	85% (72%)	78.5%		92.4%	B	●体育祭に向けた取組で、3年生のリーダーを中心として練習をすすめる姿が多く見られた。	・小学校でも周囲から高評価を受けているにもかかわらず、自己有用感が低い児童がいる。中学校と同様の傾向がある。一方で、昨年度に比べて生徒の自己有用感が向上している。 ・子どもが認めてほしい部分に、大人が気づいていない可能性がある。 ・先生に褒められることは、生徒にとっても嬉しい経験になるため、生徒に良い所を具体的に伝えていって欲しい。	・ソーシャルスキルトレーニングや日常の対話を通じて、判断力や共感力を育てる活動を継続する。 ・生徒の変容が見られた褒め方について教職員間で共有し、自己有用感の育成に繋げていく。
			・「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する生徒の割合	85% (82%)	86.1%		101.2%	A	○プール掃除や日常のボランティア活動等を通して、誰かの役に立つ経験をすることで自己有用感を高めることにつながっている。		
			・「先生や友達は、私のよいところを認めてくれている」と肯定的に回答する生徒の割合	85% (82%)	94.5%		111.2%	A	○学級活動において、お互いのよいところを伝えあったり、異学年で交流したりする取組を通して、自己の肯定につながっている。SST などによって、場面での判断力や相手の気持ちを察する力等をさらに向上させる活動を積極的に取り入れていく。		

<評価基準> A：十分に達成されている（100%以上） B：概ね達成されている（90%以上100%未満） C：やや不十分である（75%以上90%未満） D：不十分である（75%未満）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒 像)	短期経営目標 (めざす児童生徒 像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
生徒が自分の 良さや可能性 を認識し、互 いに認め合 い、協働しな がら課題を解 決できる力を 育成する。 (協働性と自 己有用感の育 成)	○ふるさとへ の愛着と誇り の育成	・地域人材を活用し た未来創造的な 学習の実践 ・生徒が自ら計画し 校外に出ていく 活動の推進	・「四季が丘中学校は、地 域の方々に支えられて いる」と回答する生徒 の割合	85% (-)	94.5%		111.2 %	A	○四季中サポート隊の方の協 力を得て、校内の環境整備等 について執行部生徒が中心と なって実施計画をたてている。	・不登校の生徒は、 勉強が苦手という理 由だけでなく、集団 生活に負担を感じる など、さまざまなタ イプの生徒がいる。 ・防災キャンプや清 掃活動を通じて、地 域に関心を持つ人が 増えて、嬉しい。	・地域人材との 連携を深め、生 徒が地域課題 に主体的に取り 組む機会を増 やす。 ・生徒が自ら計 画・実行した課 題解決型の校 外活動を通して 、ふるさとへ の愛着と誇り を育成する。
			・「廿日市市の歴史や文 化、観光、産業に関心 がある」と肯定的に回 答する生徒の割合	70% (-)	72%		102.9 %	A	○各学年で総合的な学習の時 間を中心に、地域を題材とし た課題解決学習を取り入れ地 域に目を向けさせている。		
			・「四季が丘中学校の生徒 でよかったと思う」と 肯定的に回答する生徒 の割合	90% (90%)	90.5%		100.6 %	A	○生徒主体の活動を教育活動 全体で取り組んでいるととも に、生徒同士の関わりを意図 的に仕組んだり、教師からの 肯定的な評価、安心・安全な 環境づくりなどが成果に繋 がっていると考ええる。		
			・生徒が自ら計画を立て た校外学習の実施回数	各学年 1回以上	3学 年 虹				2学年は修学旅行 11月予定 1学年は校外学習 11月予定		
「働きがい改 革」を進め、地 域と連携・協働 し、教育の質を 高め、信頼され る学校をつくる。	○働きがい改 革を推進する。  ○がんばる姿 を積極的に発信する  ○「不祥事0」 の風土を醸成 する。	・校務DXのさらなる推進 ・協働する職場風土 づくり(学年担任 制の活用) ・OJTにより伸びて いる自分を実感で きる環境づくり ・学校だより、学年 だよりの活用 ・不祥事防止委員会 の機能化と研修の 充実	・「時間外勤務45時間超 にならない教職員の割 合	75% (71%)	75.8%		103%	A	○年度初めは時間外勤務が多 かったが、長期休業中など には早めの退校を意識する ことで、改善を図ることが できた。	・業務の効率化のた めに、中学校の教員 の中でもICTを積極 的に活用して欲し い。	・保護者への情 報発信をより 丁寧かつ分か りやすく行い、 教育活動への 理解と信頼を 深める。 ・校内研修や日 常の対話を通 じて、安心して 働ける職場づ くりを継続し、 「不祥事0」の 風土を定着さ せる。
			・「四季が丘中学校で学ば せてよかったと思う」 と肯定的に回答する保 護者の割合	88% (88%)	75.7%		86%	C	●アンケートの回答項目で「わ からない」を選択した保護 者が11.2%いた。教育活動 への理解を深めていただけ るよう、通信などを通じて、 より丁寧にわかりやすい情 報提供に努めていく必要があ る。		
			・「四季が丘中学校は働き やすい職場だと思う」 と肯定的に回答する教 職員の割合	100% (92%)	94.4%		94.4%	B	●ほとんどの教職員が肯定的 に捉えており、校内研修や 日常的な声かけなどの対話 を通じて、誰もが安心して 働ける職場づくりを今後も 継続していく。		

<評価基準> A:十分に達成されている(100%以上) B:概ね達成されている(90%以上100%未満) C:やや不十分である(75%以上90%未満) D:不十分である(75%未満)